

平成22年度 第1回当別町地域公共交通活性化協議会 議事録

日時：平成23年6月27日 10:00～10:50

場所：当別町役場第二庁舎 2階会議室

出席委員 16名、欠席委員 6名、オブザーバー 2名、随行者 3名

1 開会（司会：増輪事務局長）

2 会長挨拶（近藤会長）

当別町コミュニティバスは本格的な自立した運行を始めて現在に至っている。この間委員の皆様にはいろいろな面でご協力をいただいていることを厚く御礼申し上げます。本日の協議会は、平成22年度の協議会の実績報告、収支決算報告のあと、議事として、役員の選出、平成23年度予算の変更、新たな国の補助制度の適用に向けての取り組み、最後に今後のスケジュールについて皆様方にご審議をしていただきたいと考えているので、活発なご意見をいただけるよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、会議に先立ち平成23年度に入りましてから、役所の人事異動あるいは各種団体の役員改選などにより、本協議会の委員に変更が生じているので、委嘱状を交付させていただきたいと考えているので、よろしくお願いする。

3 委嘱状の交付

会長より委嘱状の交付

空知総合振興局札幌建設管理部当別出張所長	渡辺 昭寿	さま
当別町行政推進員連絡協議会会長	山下 義則	さま
当別町PTA連合会会長	森 政徒	さま

北海道開発局札幌開発建設部札幌道路事務所第3工務課長 本間 定男 さま  
につきましては本日欠席

4 報告

(1) 平成21年度活性化・再生総合事業実績報告について

事務局（熊谷企画課長）

本事業については、3月の段階で大半は説明させていただいている内容であるため、今回4名の委員さんが新たに選任されたこともあり、要点を絞ってお話をさせていただくことをご理解いただきたい。

P1～P3については、本協議会の背景等々を載せさせていただいている。P4については、昨年度行った会議の内容について整理している。P5以降は22年度に実施した協議会の内容を載せている。コミバスは1回1路線200円の運賃回数券12枚つづり2,000円、応援券1月4,000円で進めている。平成22年4月1日からは第1期ということで平日83便運行しているところ。第2期として12月1日から本格運行向けダイヤとして平日80便、車両台数も5台から4台に変更している。P7全体利用者数について整理している。平成22年度合計139,979人

と 140,000 人を突破した昨年度より若干減ったものの 139,000 人を堅持できた。

P 8 には市街地循環線の乗り込み数を示している。平成 22 年度合計 5,789 人、年々減少している状態、平成 21 年度から見ると大幅な減少となっている。この原因については、とうべつ整形外科の脱退、12月のダイヤ改正、1月の大雪でダイヤが乱れるなど利用者が減少したものと分析している。

P 10 は金沢線について記載している。主に医療大学の学生や患者に利用していただいているもので、堅調に伸びを見せている。平成 22 年度で 49,381 人のご利用をいただいた。

P 12 西当別・あいの里線は 69,657 人の利用をいただいている。

P 16 みどり野・青山線は苦戦している、とうべつ整形外科の脱退、通勤通学者の減少から微減傾向にある平成 22 年度は 14,943 人に利用いただいた。

P 20 運行コストについてですが、464,156,664 円がかかっているが、昨年度と比較して 500 万円ほど節減できている。運行収入は運賃収入・応援券・回数券・一日乗車券・広告収入を合わせて 10,428,400 円となっており、平成 21 年度比較では 4%の増となっている。利用者は若干減っているが、運賃収入については増えている。

P 23 スイスイふれバは 2 年 8 カ月実証運行を行ってきたが、採算ラインの 6 人まで利用人数を増やすことができなかつたため、平成 22 年 11 月をもって廃止することとなった。キャンペーンを行うと利用者があるため潜在的な利用者はいたが、ご都合があつて利用していただくことができなかった。

夏休み・冬休み限定の子ども定期券は昨年に引き続き販売している。今年度については、夏季 4 枚冬季 2 枚の販売実績がある。

バス運行に付随して行っている利用促進策をまとめたのが、26P以降となっている。平成 22 年度も小中学生向けのモビリティ・マネジメント。医療大学生向けにも実施している。平成 22 年度は新たに市街地循環線地区の住民を対象にモビリティ・マネジメントを実施させていただいた。実施した内容については、資料 1 - 2 P 49 に載せさせていただいているので、後程ご覧いただきたい。

P 31 ニーズレターの発行と交通マップの作成している。とうべつバス通信は 6 号を発刊、バスマップ(時刻表)も発行している。

P 32 利用促進ツアーで日本ハムファイターズ応援ツアーを 4 月 9 日(金)札幌ドームで実施している。

P 33 バスの運転手に対する接客研修を行った。バスまつりの開催については、平成 22 年度は当別町 140 年記念事業、さわやか駅伝とタイアップして実施した。来場者数は 4,500 人と昨年のほぼ倍お集まりいただいた。開催に当たってはジェイアール北海道バス・北海道中央バスの協力により、ファイターズ号や薪で動く「まき太郎」を借りることができた。北海道運輸局のご配慮によりバスの乗り方教室、バリアフリー教室なども実施できた。

P 40 はバイオディーゼル燃料の取り組みについて記載している。P 41 にまとめて記載しているが、平成 22 年度 33,758 リットル回収させていただいた。その中で 28,572 リットルを精製してバイオディーゼル燃料として使用し、バス燃料全体では 46,961 リットルの使用となっているが、そのうち 60%以上が BDF で運行できた実績となっている。軽油を使った場合と比較して、経費が約 1,300,000 円弱 1,296 千円ほど節減できた結果になっている。

オフセットクレジット制度も活用している。バイオディーゼル燃料を使うことによって二酸化炭

素排出量を削減している、この削減量を売買取引できるのが J-VER 制度であります、この排出量全量を ANA に買い取って頂く、あわせて ANA と環境まちづくりパートナーシップ協定を締結させていただいている。この協定に基づいて環境教育を実施することにしていて、明日 28 日に西当別中学校で ANA の CSR 担当セクションから担当者が当別に来て環境教育を実施する。

P 4 2 O D 調査利用者の起終点、どこまで利用されたかを把握するものです。こういったものを例年通り実施した。こちらの結果については、資料 1 - 2 の P 6 8 をご覧いただきたい。調査サンプル数 3,125、属性比較子ども、学生、一般、高齢者、学生が一番利用していて、高齢者より一般の方のほうが多く利用されていることがわかる。P 6 9 では応援券の利用が減っているが回数券利用が増えているということがわかる。こういった調査をもとにダイヤ・ルートなどの見直しをしていきたいと考えている。P 4 4 以降にまとめがあるが、P 4 7 に集約している。平成 22 年 1 2 月 1 日から本格運行ダイヤ・車両台数で実施している。正確には 4 月 1 日から補助金に頼らない運行に移行していますが、実際はバス運行に対して、補助金に頼らず運行ができているということである。しかし、感謝ツアー、バスまつりといった普及啓発活動には財源がない状況である。今後は宣伝広告収入の増収や利用者を増加につとめて、なるべく普及啓発活動を盛り立てられるように事業展開していきたい。資料 1 - 1 資料 1 - 2 については以上。

質疑なし

## ( 2 ) 平成 22 年度協議会決算及び監査報告について

事務局 ( 熊谷企画課長 )

資料 2 - 1 に基づき説明。

協議会予算の収入の負担金については、予算額 34,800,000 円に対して 30,759,833 円で 4,040,167 円の減となっている。これについては、参加事業者負担金の還付金等による収入減となっています。参加事業者負担金は、下段に内訳を記載しているので、ご覧いただきたい。

補助金は、予算額 19,800,000 円に対して、収入額 19,800,000 円となっており、こちらは国交省の地域公共交通活性化再生事業補助金となっている。

繰越金は、予算額 4,408,184 円に対して収入額 4,408,184 円ということで前年度からの繰越金。

諸収入は、予算額 20,000 円に対して収入額 2,425 円 17,575 円の減となっている。こちらは利子収入等の減。

収入全体ですが、予算額 59,028,184 円に対して収入額 54,970,442 円 4,057,742 円の減となっている。

支出ですが、予算額 300,000 円に対して支出額 170,706 円、129,294 円の減。こちらは会議及び事務局費の経費節減による減。事業推進費 54,300,000 円に対して支出額 47,926,366 円 6,373,634 円の減額。こちらについては、B D F 燃料の活用による減、1 2 月 1 日にダイヤ改正を行ったことによる運行便数の減便や車両台数を 5 台から 4 台にするなど、委託費が大幅に減額となっていて、5,022,736 円となっている。その他大きな部分で、広報公聴費で 8,990,000 円が 7,655,102 円に減額となっている。こちらは、執行残及び入札差金等によりまして、1,334,898 円の減額となっている。支出の最後ですが、予備費については、4,428,184 円支出額 0 円 4,428,184 円の減となっている。

総計、収入 54,970,442 円、支出合計 48,097,072 円差引 6,873,370 円が次年度繰越となっている。

資料 2 - 1 については以上。

会長

この後監査報告となっているが、監査である五賀委員、山内委員が本日欠席となっている。

監査につきましては、事前に事務局のほうで、2名の監査委員の監査を受けているので、事務局から監査の結果について報告させていただく。

事務局（熊谷課長）

去る、平成23年6月10日に役場中会議室におきまして、五賀委員、山内委員両監査に監査いただき、平成22年度の協議会会計及び出納に関する書類及び通帳をご確認いただいたところである。

結果はこの報告書に記載されているとおり、適正に行われているものと、認めていただいている。併せて資料2-3の備品台帳について。本質的には国庫補助をいただく関係上、50万円以上の備品については、台帳を整理しなければならないことになっている。当協会では備品扱いになるものはすべて台帳整理しているというところで監査を受ける際、台帳も併せて監査をいただいていることも合わせてご報告させていただく。

以上。

質疑無く承認（全体の拍手）

## 5 議事

### （1）役員の選出

事務局（熊谷企画課長）

本協議会の監査委員については、設置要綱第10条第1項の規定により委員の皆様による互選によって2名をお決めいただく内容になっている。山内委員、五賀委員が監査委員であるが、五賀委員が今回委員をおりられたため、五賀委員に代わる委員の選任をお願いしたく、よろしく願います。

会長

ただ今、事務局から説明がありましたが、監査委員の選出についてどのようにとりすすめたらよろしいか皆様方のご意見を伺う。

土肥委員

会長に一任。

会長

会長に一任という意見があったが、ほかに意見はないか。

異議なし

会長

それでは会長一任ということで進めさせていただく。

事務局で腹案があれば、発言していただきたいが、腹案はあるか。

事務局（熊谷課長）

五賀委員におかれましては、行政推進員連絡協議会の会長ということもあり五賀さんに引き継いで山下会長にお願いしたいと考えている。

会長

ただ今、事務局から腹案として、行政推進連絡協議会の会長である、山下委員にお願いしたいということだが、いかがでしょうか。

異議なし。

会長

それでは山下委員にお願いする。

## （２）平成２３年度予算の変更について

事務局（熊谷企画課長）

先ほど資料２ - １平成２２年度収支決算をご承認いただいたところだが、３月の協議会に平成２３年度予算を承認いただいている。その段階では、平成２３年度の決算を終えていないということで繰越額に不確定。その部分が確定したので、平成２３年度予算に変更をさせていただきたく、ご理解いただきたい。

変更額については、収入の部繰越金 4,410,609 円を 6,873,370 円に変更させていただきたい。

また、支出については、当該決算により、歳入が増えた部分は積立金として積立させていただきたい。科目は４ - １ - １積立金ということで、2,460,000 円積立させていただきたい。こちらについては、当初予算で千円単位で端数をまとめるということもあり、資料２ - １では 2,462,761 円の精算となっておりますが、端数整理の関係もあるので、2,460,000 円という形で整理させていただく。収入支出ともに 42,580,000 円ということで整理させていただくので、よろしく願います。

滝本委員

積立金が新たに出てきたが、目的は何か。

事務局

積立金の目的については、今年度から補助金に頼らない本格運行に移行しているということ、収入支出脆弱な運行をしているので、こちらのために充てることが第一の考え方。その他なるべく積立を多くして、啓発とか利用促進の事業に少しでもシフトできるように積み立てていきたいと考えている。

提案とおり承認

### (3) 新たな補助事業の活用について

事務局（熊谷企画課長）

資料4-1、4-2を並行してご覧いただきたい。当別ふれあいバスについてこれまで、あの手この手を尽くして、財源確保、補助金確保に努めてきたところである資料4-1枠の一つ目に書いている補助金活用の経過、平成18年19年については、国土交通省の自動車事故対策補助金、平成20年度から22年度の3か年につきましては、地域公共交通活性化再生総合事業、活性化事業といわれる補助金を活用してきた。活性化事業が上限3年ということであって、次の助成制度あるいは公共交通に関する法律も見えないということもあり、23年4月から補助金に頼らない運行に移行したということであるが、このたび、国の動きとして、新たな補助制度ができたので、ぜひこの制度を活用したく、提案させていただいた。補助事業名につきましては、地域公共交通確保維持改善事業、便宜的に維持改善事業といわせていただく。こういった、補助事業が制度化され、当別町のバス事業に活用できる活路が見いだせたということである。国及び道の補助というところをご覧いただきたい。この維持改善事業ですが、メニューが複数あり、そのうち地域間幹線系統補助という補助と、地域内フィーダー補助という二つが当別町の場合活用できそうだということがわかってきた。まず、地域間幹線系統の補助ですが、一日当たり一便15人以上バスに乗っていることが必要とか、複数の自治体をまたがなくてはならないとかの条件があり、当別町のバスの場合あいの里線が対象になる可能性が高いということである。また、当該補助制度はバス年度といわれる独自の年度があり、当該年度の補助金を計算するうえでは、前年度の10月から9月までの経費の積み上げが対象経費換算となるということであり、こちらの経費を積み上げるとマックス1,415千円の補助が見込めるのではないかと考える。生活交通ネットワーク路線イメージに付しているが、幹線の考え方、今申し上げたとおり当別駅から医療大のあいの里キャンパスまでこれを幹線と認めていただくことが一つ、また、その下に書いてある地域内フィーダー系統補助、はフィード、供給するとか接続するとかの意味があるようですが、この幹線にフィードする路線、フィーダー系統路線として、補助対象になりそうだということがわかってきた。当別町のバス事業の場合、あいの里線以外は、おおむねフィーダー系統として認められそうだ。また、補助金につきましては、900千円を限度に補助要望ができて、定められた率を掛けられて補助金交付決定がなされるのではないかとということまで、情報が伝わってきているところである。この補助金には上限設定があって、市町村ごとにしかるべき率がかけられて、補助金額が決定するという複雑な内容になっている。地域内幹線、地域内フィーダーというような補助金がもらえそうだということが分かったので、ぜひ、この補助金獲得に向けて動き出したいということが一点目。

二点目ですが、この補助金を獲得するためにはしかるべき計画を作らなくていけない。計画策定にあたってですが、幹線系統の補助金をもらうにあたっては、都道府県レベルの協議会で計画書を作成していただくかなくてはならない。フィーダー系統につきましては地域の協議会で計画を作れば認めていただけるというようなルールになっているところがございます。そういったことからぜひ協議会で、このネットワーク計画を策定して補助金申請、補助金確保に努めていきたい。資料4-2の計画ですが、平成23年度の運行計画に付け加えて幹線がどのようなルートなのか、フィーダーがどのようなルートなのか経緯を盛り込めばネットワーク計画になるということである。我々のバス事業の場合は、特に実施する内容は出来上がっているものですから、この部分を盛り込めば、この計画書になるということである。先ほどの補助金申請に合わせてこのネットワーク計画について、ご承認いただきたいというのが今回の議事案件である。幹線の部分は、先ほど申した通り、都道府県の協議会で認めていただかなければならない。現在石狩振興局さんに申請中ございまして、この会議で承認いただ

ければ、正式に認めてもらえるような動きに移行していきたいと考えている。併せて幹線の考え方であるが、今現在当別駅からあいの里キャンパスまでを幹線ということにしているが、実は、あいの里線と金沢線を統合して一元化し、これを幹線とすることで補助金獲得が有利になる可能性がある、という情報も伝わってきている。このような状況も見えてきたこと、また、あいの里線・金沢線をまたいで運賃を払って利用されているお客様が意外に少ないことから、補助金獲得に動いたほうが有利に働くということもあり、今後は要綱を見極めながら、線の一元化・統合について進めていきたいということも、了承いただければと思っている。以上説明する。

提案とおり承認

#### (4) 今後のスケジュールについて

事務局（熊谷企画課長）

資料5をご覧ください。本日、協議会を開催し平成22年度の決算報告等をさせていただきました。

9月の下旬にバス事業等の中間報告をさせていただくような会議を開催させていただきたいと考えている。

また、12月にはダイヤ改正・路線変更などを予定させてもらっている。そのダイヤ改正に向けた会議も9月の下旬に行うことをお含みいただきたい。ダイヤ改正・路線変更は、先ほどの議題で申したとおり金沢線とあいの里線の一元化も視野に入れたダイヤ改正を考えていることをお含みいただきたい。また、12月下旬は年末年始の運行も予定させていただいているので、よろしくお願いする。年度末3月に、協議会を開催させていただき、2月までの実績報告、24年度の事業計画をご審議いただく考えでいる。年度明けの4月にはバス事業者との委託契約ですとか参加事業者3者との新たな協定などのご報告をさせていただきたいので、よろしくお願いいたします。

質疑無く承認

7 その他

特になし

8 閉会（近藤会長）